



歴史資料館だより

発行者 聖隷歴史資料館

〒四三三-1855

浜松市中央区三方原町三四五三

聖隷クリストファー大学五号館一階

TEL 〇五三(四三三) 三四〇七



◆ 聖隷歴史資料館 開館時間のご案内 ◆

平日(月～金)の10時～17時

(土・日・祝日と

聖隷学園の休日は休館)

聖隷学園特集

聖隷学園のはじまりと今

聖隷学園 専務理事 小柳 守弘

2024年元日から、能登半島地震、羽田の航空事故、そして収まる気配のないロシア・ウクライナやイスラエル・パレスチナ、その他の戦争と、新年のご挨拶を伸べるのにふさわしくない年明けとなりました。

2018年まで毎年実施しておりました聖隷グループキリスト教信徒交流会も新型コロナウイルス感染症拡大のために中断してしまいました。年に1回発行の歴史資料館だよりは継続したいと願い、今回も各法人に情報等の提供をお願いいたしました。また、聖隷学園担当の今号は、聖隷グループにおける教育事業の始まりと学園の現在の姿を特集いたしました。

戦争で命を失い、傷ついた人々、災害で肉親を、住む場所を失った人々の上に、そして皆様のおかげに等しく神様のお恵みがありますようにお祈りし、新年のご挨拶といたします。

聖隷歴史資料館

聖隷は、キリスト教社会事業家の賀川豊彦氏の助言による全園イエスの友会の一坪献金運動により1936年に浜松三方原の地を与えられ、多くの人々の支援を得て結核患者さんのために働く中で1945年、第二次世界大戦終戦を迎えました。聖隷を始めたクリスチャンたちのひとりである長谷川保は、そのとき一週間の祈りの中で日本の復興と聖隷保養農園の将来について考え、数項目の構想をまとめました。そのひとつが「日本の復興は若者の教育にあり」とした教育事業でした。

遠州キリスト学園開設

最初の学校は1946年にはじまった「遠州キリスト学園」。聖隷保養農園の長谷川保・鳥居恵一、松本美實牧師、初代園長と

なる元浜松工業専門学校福原達三教授らが始めた農村復興のための巡回教室でした。校舎は旧陸軍の兵舎を譲り受けて保養園の敷地内、現在の十字の園あたりに建てられ、1949年に各種学校の認可を受け授業が始まりました。命名は賀川氏、デンマーク国民高等学校に倣い、スイス時計学校に学んだという学園は、ほぼ新制高等学校の教科に準じて三方原開拓農村の青年男女の夜間学習塾として、また午後は午前中病室で働き学ぶ生徒のための授業が行われました。



遠州キリスト学園定礎式

聖隷学園の今





看護教育のはじまり

准看護婦養成所への移行

遠州キリスト学園が始まってわずか2年を過ぎた頃、深刻な看護婦不足の中で、既に衆議院議員であった長谷川保は国家的な視野と、聖隷グループのトップとしての見識から、学園を看護婦養成学校にしようと考えます。1951年に保健婦助産婦看護婦法が改正されたことを受



聖隷准看護学園校舎

けた准看護婦養成所の設立でした。1952年2月から設立準備に入り、同年4月に開校というスケジュールで、遠州キリスト学園は准看護婦養成所に切り変わっていきました。日本赤十字社や公立病院の看護学校が担っていた看護婦養成は民間ではわずかに聖路加国際病院看護学校で行われていた時代です。必要な備品は病院から借り、机は閉校する豊橋の学校からトラックで運んで開校にこぎつけ、遠州キリスト学園の生徒や病院で働きながら待っていた人、全国から集まった人等が入学しました。

最初の教務主任には聖路加出身

の先生を迎え、後にはドイツの「デアコニツセ母の家」から聖隷に派遣されたハニ・ウォルフ姉妹の支援を得た時期もありました。専門教科の授業は回復期の患者さんだった専門家、病院の看護職・医師など。



2年目には料亭の古屋を移築して生徒寮も建設され、聖隷病院での実習の帰りは大谷川を渡って松林を抜けて帰寮、生徒たちは貧しさの中でも学習意欲に溢れ、若い日の夢を共有しました。クリスマスには三教室を解放して舞台を作り、村の人々も集まって保養園を挙げての祝日を過ごしたのです。

養成所は1959年に各種学校として静岡県の認可を受け「聖隷准看護学園」と名称変更して通算14期にわたり卒業生を輩出し看護婦不足対策の一翼を担いました。その教育には、教師、学生、病院の医師・看護職らの看護教育への熱い思いと神と人とに仕える者としての慎ましさがありました。

聖隷学園高等学校から 聖隷学園浜松衛生短期大学へ



その後、高校卒業資格の取得、また看護婦資格の取得という生徒たち及び社会の要請に因應するために、准看護学園は准看護婦を養成する

高等学校衛生看護科へ移行、さらに次の段階としてその卒業生が進学し看護婦資格を取得することのできる短期大学の開設へと動いていきます。

1960年代のはじめ、准看護婦を養成する衛生看護科の高等学校は全国に25校でした。1966年に学校法人聖隷学園を設立し、私立では初めての衛生看護科単科の聖隷学園高等学校が開校しました。そして一期生の卒業に合わせて1969年に准看護婦資格者を受け入れて看護婦資格を与える2年課程の聖隷学園浜松衛生短期大学衛生看護科開設に至ります。

1970年代になると学園の高校教育のゆくえと生徒たちの将来、合せて准看護婦制度廃止の動向を考え、高校は普通科に移行する一方、短期大学に高校普通科卒業生を受け入れる3年課程の衛生看護



科を増設しました。こうして70年代後半には二つの学科で計200名の看護婦を輩出する短期大学に成長し、静岡県西部のみならず

全国の医療施設の看護婦不足の窮状を救う役割の一端を担うようになりました。

長谷川保は、聖隷学園20周年に際し「聖隷はアジアや全世界に向かって奉仕の仕事を展開するよう神様のお召しを受けている」と学園の使命を述べました。短期大学の歴史のなかで、国内だけではなくJICA（国際協力機構）やJOCIS（日本キリスト教海外医療協力会）などのワーカーとしてアジア・アフリカで支援を必要とする人々のために活動する卒業生、聖隷病院から災害救助派遣に應じる卒業生などが育ち、その精神は教育に反映されてきました。

短期大学は1980年に助産婦養成のための専攻科助産学特別専攻の設置、大学開学後看護学科一学科へ、そして2002年の看護短期大学部への名称変更を経て2006年に大学看護学部へ発展的に解消し37年の歴史を閉じました。



介護職養成の

介護福祉専門学校開設

聖隷に有料老人ホームエデンの園やゆうゆうの里を創設した長谷川保はそこで必要なヘルパー（長谷川の造語といわれている）の養成を喫緊の課題と考え、学園にその養成施設づくりを急ぎました。最初の学校が短期大学付属福祉医療ヘルパー学園、介護福祉士制度法制化に先立つ1978年のことでした。法制化に伴いヘルパー学園は1988年に介護福祉専門学校となり、その後大学社会福祉学部と並行して介護福祉職を養成しています。

看護大学開学、続いて社会福祉・リハビリテーション学部開設

短期大学の開学を決めた時点で四年制大学及び大学院の開学・開設は学園の視野に入っていました。長年にわたる看護教育の歴史と実績をもとに、静岡県西部の保健・医療・福祉のレベル向上に大きく貢献すること、世界の先進国と同じレベルの保健・医療・福祉の専門職教育と研究を行うことを目標に、1992年聖隷クリストファー看護大学を開学しました。

実現には東京海上火災保険株式会社（当時）から多額の寄付をいただいたこと、聖路加看護大学学



長・同国際病院院長（当時）の故田野原重明氏の助言を仰いだこと等のほか各方面からの支援により聖隷の夢が実現したのでした。

2002年には高齢者・障がい者・こども福祉など福祉社会に必要な人材養成のために社会福祉学部を増設し、大学名称を聖隷クリストファー大学としました。また2004年には高齢者や障がいのある人のQOLを維持・増進する役割が高まっている理学療法、作業療法、言語聴覚療法のリハビリテーション専門職を養成するリハビリテーション学部を、さらに2023年に社会福祉学部を再編し、新たに国際教育学部こども教育学科を増設して今日に至っています。

大学院教育としては、1998年に最初の大学院看護学研究科（修士課程）を開設し、現在では看護学のほか社会福祉学、リハビリテーション科学合わせて三研究科博士前期課程及び博士後期課程を擁し、保健・医療・福祉のより高度な専門職養成、研究者養成を行っています。

中学校開設と中高一貫教育



高等学校は2001年に校名を変更して聖隷クリストファー高等学校とし、2003年には校舎を新築して移転、2006年に普通科に加えて英数科を増設しました。建学の精神である

隣人愛に基づく人間性豊かで真に人のために役立つ人材育成に加え、英数科では医療と福祉に貢献する高い志を持ち、広い視野と国際感覚により世界を舞台に活躍する人材の育成を目的としています。

そしてその教育目的に繋がるのが、中高一貫教育を行うために2009年に開設した聖隷クリストファー中学校です。世界に通用する人間観、価値観を備えた生徒の育成という高校英数科と共通する教育理念のもと、共に大学との連携にも取り組んでいます。また聖隷グループの教会、医療・福祉法人の施設の協力は教育機会の多様化に資するものとなっています。

社会のグローバル化と

こども園、小学校開設

2006年に始まった認定こども園制度に基づく幼保連携型認定こども園として、学園は2011年に大学附属クリストファーこども園を開設しました。保護者の就労いかんにかかわらず就学前の子どもに教育・保育を一体的に提供し、かつ地域における子育て支援を行うという制度の趣旨に基づき運営に、キリスト教主義を基盤として、心身ともに健やかな子どもの成長を育むことを園の基本理念としています。大学附属の園として、大学教員との協力・共同研究や学生の実習園としての役割も担っています。

2013年以降、急速なグローバル化に対応した英語教育改革の必要性から検討が行われ、文部科学省より英語学習の早期化、教科化を含むこれからの日本の子どもたちへの英語教育のあり方について方針が示されました。そのような中で聖隷学園は2020年に英語イマージョン教育による聖隷クリストファー小学校を新設しました。英語イマージョン教育とは英語を学ぶことが目的ではなく教科を学ぶ手段として英語を用い具体的な学習活動を通じて自然に英語を身につける教育プログラムです。



また小学校での学びが継続できるよう、2022年に既設の中学校にグローバルスクールコースを設けました。小・中学校を通じて特色ある英語教育と主体的な探究型学習の充実を図り、隣人愛の精神と国際的視野を持って社会に貢献できる生徒を育てています。将来的には英語イマージョン及び国際バカロレアを取り入れた小・中・高12年一貫のグローバル教育を実施するプログラムを構築する計画です。

学園の課題と今後

聖隷学園におけるグローバル教育の推進は、現在学園が目指しているメデイカルスクール構想にも繋がるものです。一方でクリスチャンの理事・教職員の減少、少子化の中での学生・生徒数の確保、介護人材の養成数に比べられていない現状への対策などの課題を抱えています。学園は、70年間余りで聖隷グループほか多くの支援を得てこども園から大学院までを開設しましたが、今日の学園内外の変化に対応しながら当初の理念を維持して聖隷独自の人材を育成するという大きな課題のもとで前進を続けなければなりません。

(参考・西村ミサ著「山の上の学園―聖隷学園のはじめ」、聖隷学園二十年の歩みと展望」、蛭名賢造著「聖隷福祉事業団の源流」ほか)

聖隷学園学生・生徒・園児 在籍の状況 総数3,208名(2024年1月現在)

クリストファーこども園

0歳～満3歳児	64名
年少	61名
年中	56名
年長	53名

聖隷クリストファー小学校

1年生～6年生	234名
---------	------

聖隷クリストファー中学校

中高一貫コース	
1年生～3年生	120名
グローバルスクールコース	27名
(1年生～2年生※開設2年目)	

聖隷クリストファー高等学校

英数科 1～3年生	177名
普通科 1～3年生	877名

聖隷介護福祉専門学校

1～2年次	40名
-------	-----

聖隷クリストファー大学

看護学部

看護学科(1～4年次)	624名
(看護師/保健師/養護教諭 課程)	

助産学専攻科	17名
--------	-----

社会福祉学部

社会福祉学科(1～4年次)	206名
(ソーシャルワーク/介護福祉/福祉心理 コース)	
こども教育福祉学科(2～4年次)	108名

リハビリテーション学部

理学療法学科(1～4年次)	192名
作業療法学科(1～4年次)	118名
言語聴覚学科(1～4年次)	96名

国際教育学部

こども教育学科(1年次※開設1年目)	52名
--------------------	-----

聖隷クリストファー大学大学院

看護学研究科

博士前期課程	17名
博士後期課程	20名

社会福祉学研究科

博士前期課程	5名
博士後期課程	10名

リハビリテーション科学研究科

博士前期課程	21名
博士後期課程	13名

聖隷グループで活躍する学園卒業生 学園の人材養成への期待

◆ 浜松十字の園生活相談員

平野香織里さん

(大学社会福祉学部 卒業)



私は聖隷クリストファー大学社会福祉学部を卒業後、社会福祉法人

十字の園へ入職し、現在は特別養護老人ホーム浜松十字の園で生活相談員として勤務をしています。

主には入所相談や入所者様の生活相談、ご家族と施設を繋ぐ役割を担っています。業務につく際には「話を聴く、心を傾ける」事を一番大切にしています。入所相談に来られる方には介護問題のみでなく、金銭面や家族内問題等、表面上にはみえない課題を抱えている方もいます。身寄りのない高齢者も増えています。心を傾けて、しっかりと話を聴く事で、解決すべき課題が明確になり、より深い支援に繋げる事ができると考えています。

一般的に言われる特養相談員の業務内容と照らし合わせると、その範囲を超えているのかと自問自答する事もあります。そんな時は、聖隷で学んだ長谷川保先生の隣人

愛の精神を思い出します。困っている方がいる、そこに道を切り開いてこられた事実にあふれると、おのずと答えがみえてきます。迷った時に立ち返る場所(考え)を学んだ事は、私の大きな財産です。そんな考えを尊重し、働きを任せてくださる環境に感謝し、これからも心の声に寄り添った支援ができるよう、日々精進していきます。

◆ 十字の園法人本部

金谷一作 総務課長

(高等学校 卒業)

「隣人を自分のように愛しなさい」という、隣人愛の精神に基づき、人を大切にできる心を持った若者を育成していただきたい。それを伝えるには、学生と接する教員はもちろん、学園で働く職員が、隣人愛の精神と真摯に向き合い、行動していく姿勢を見せていく必要があります。自分の世界を大切にしたい若者が増えていますが、自分以外を無視するのではなく、自分以外の人、困難の中にある人を助けることを考えられる人材を育てるのが、聖隷学園の進むべき道ではないでしょうか。

今日の日本は、労働人口が減少する中、慢性的な人材不足となっています。介護も含め様々な職種で人が集まらず、サービスを縮小する傾向にあります。学園は、海外でも通用する日本人の育成を先進的に進めてきましたが、これからは、海外から適切な人材を日本に集め、教育し、地域に人材を供給していくことを重視した活動を強化していくことを期待しております。

◆ 聖隷福祉事業団いなさ愛光園

看護師 木村(旧姓川和)敏子さん

(高等学校・短期大学卒業)



母親に資格をとることをすすめられ、聖隷学園高等学校入学を契機に看護への道を考えるようになり、浜松衛生短期大学に進学、その後、聖隷三方原病院で27年間勤務しました。

看護学生の頃は何もできない自分に虚しさを感じていましたが資格をとり、就職してからはケアや処置など「できること」が増えることに楽しさを覚えました。手術後の患者さんを夜勤で担当した翌朝に「寝ずに看病してくれてありがとう」と言われたことが長い病院勤務の中で最も心に残っている出来事です。

患者さんが治療を受け、回復していく過程を目の当たりにするときには看護師としての満足感を感じ、直接いただく感謝の言葉は純粹に嬉しく励みになっていました。また、それぞれの診療科で体験できたこと、得られた知識や技術は自分の強みであり宝です。全ての方が元気になって退院していくわけではありませんが、一番患者さんの近くで寄り添い少しの変化で喜んだり悲しんだりできることも病院で働く看護師としてのやりがいの一つでした。

2018年に病院から特別養護老人ホームいなさ愛光園に異動しました。施設は病院とは違い、急性期の医療を必要としない高齢者の「生活の場」であり「終の棲家」として利用されている方がほとんどです。他職種と協力しながら利用者さんの生活の一部だけでなく人生に関わり最後まで寄り添うことができ、病院とは違ったやりがいを感じています。施設看護師の役割は、病院のように医師が常駐していないため、医療ケアの判断を求められることが多々あります。利用者さんの急な体調変化をアセスメントし、必要な医療や対応を提供するため責任は重大です。病院での経験がここで活かされていると自負しています。

どこで働いても、看護師は人の



命に関わる精神的にも負担の大きい職業です。私は看護師という職業に高い理想があったわけではありませんが、今では「天職」と思っています。

◆小羊学園 稲松義人 理事長

小羊学園で働いた聖隷学園の卒業生として、最も知られているのは、聖隷学園高校看護科の一期生として小羊学園に就職して凶らずも集団赤痢に遭遇し、数週間の勤務の後、くも膜下出血に倒れ、数年後天に召された故足立愛子さんである。足立愛子さんの同級生たちによって建立された記念碑が、今もクリストファー中・高等学校の玄関の傍らに据えられている。小羊学園の創立者山浦俊治は、その著書の冒頭でこの足立愛子さんを、献身的に働く職員象徴として取り上げ、後継の私たちへのメッセージとされた。もちろん、職員だけの力ではやれなかったことを周囲の人たちの援助によって支えられてきたことで小羊学園の歩みを守られてきたのだが、山浦は、その後も子どもたちの支援に精一杯向き合う職員たちの気持を尊重し、できるだけそれを応援したいと願いつつ、園長、理事長の責任を負われたと語っている。

小羊学園では、聖隷学園の卒業

生を特に意識して任用したり配属したりしたわけではないが、昨年3月まで重症心身障害児者施設つばさ静岡の療育部長を務めた鈴木良成や、現在三方原スクエアの施設長をしている舟橋暢など、現在法人役員を担っている者もいる。また、現在聖隷クリストファー大学の同窓会長を担っている紅谷純は、小羊ダイケアホームや在宅支援センターを担っている。通所施設の管理者に合せて、浜松市障がい児放課後支援連絡協議会の事務局を務めるなど、地域での事業展開に大きな役割を果たしている。

地域の中で、他法人の社会福祉施設・事業所のほか行政などの関係機関や、仕事でお付き合いのある地元企業のなかにも聖隷学園の卒業生は少なくない。これらの社会で活躍する同窓生の出会いの中から、今日の日本の社会福祉に求められている「地域共生社会の再生」への足掛かりが生まれまいだろうか」と密かに期待している。

「聖隷」というと、最近それぞれが所属する事業主体ごとに捉えられるようになってきているのではないかと感じるが、聖隷の長い歴史の中で、意識的あるいは無意識のうちに蒔かれた「隣人愛」の種が地域の中で芽を出し、さらにすべての人に広がっていくことを願っている。

聖書のことば

「お喜びになる神」

イザヤ書第六二章二節～五節

学校法人聖隷学園 宗教主任 永井英司

イザヤ書には、バビロニア帝国によって滅ぼされたイスラエルを、神が新しく創造するという預言が告げられています。自ら神を中心とした神聖政治の体制を棄て、王政を取ったイスラエルは、ソロモン王の時代に、この世の栄華を極めるのですが、その直後、国を奪われ離散の民ディアスポラとなっていました。

ところが、創造主なる神は「わたしは怒ってあなたを打ったが今、あなたを憐れむことを喜ぶ。イザヤ書60：10以下」「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。エレミア書29：10以下」という、救いの約束を遂行していくのでした。

神が創造する新しい世界は、「救い主」「贖い主」である神によって導かれ、イスラエルの民が、「主の祭司、神に仕える者イザヤ書61：6」とされ、「主の祝福を受けた一族イザヤ書61：9」として、「主に

よって楽しみ、神にあつて喜び踊るイザヤ書61：10」民となると宣言されています。人間の手に拠らず、神の霊によって齎されるこの喜びとは、「公平、正義イザヤ書32：16」と「平和、信頼エレミア書33：15」に満ちているとイザヤが告げ、神の名を呼び、祈り求めるなら、この喜びは成就するとエレミヤが告げています。

聖書は「若者がおとめをめとるように、花婿が花嫁を喜びとするように、神はあなたを喜びとされる。イザヤ書62：5」、神は私たちが喜び楽しみ生きるのをご覧になられ、ご自身が「喜びの歌をもって楽しまれる。ゼファニヤ書3：17」と言うのです。

私たちが喜び生きることが神を喜ばせ、神の喜びとなると言うのです。かけ離れた存在でしかなかった神が、今や私たちのそば近くにいてくださることに気付かされます。私たちが喜び生きることが神の喜びであると言う、新しい関係性を神がお与え下さっていることに感謝したいと思います。



**** 聖隷グループ情報 ****

インド聖隷希望の家

クリスマスと新年おめでとうございませう。2023年は希望の家にとつて記念すべき年、チャレンジと成功と恵みの年でした。希望の家は、多くの人々の苦しみを和らげる希望と癒しの道



しるべとして開設され、私たちは33年間継続して障害のある人たちが、ケアとサポートを必要としている人々へのひたむきな支援を行ってきました。いろいろな困難はありましたがあらゆる可能な方法で人々への献身的なサービスを広げることができました。わたしたちの州の多くの人々に祝福を与えてくださった神様の豊かなお恵みに感謝します。また皆様の心からの愛とサポートはわたしたちが奉仕する人々の生活に有意義な影響を与え、支援が必要なコミュニティに希望と喜びと前向きな変化をもたらしてきました。わたしたちは、障害を持つ人すべてが輝くことのできる成長・発達環境への新たな道

を共に模索し続けます。希望の家は、食料支援活動からスラム街や地元の老人ホームの訪問まで、さまざまなコミュニティサービスに積極的に取り組んでいます。そのため希望の家の人々は、共感、思いやり、そして他人の生活にポジティブな影響を与えることの重要性を理解しています。神様があなたの必要をすべて満たし、あなたの人生に喜びと満足感を与えてくださいますように。愛と信仰と共有にあるあなたの人生を祝福し、内なる平和であなたの魂を慰め、今もこれからもあなたに健康を与えてくださいますように。クリスマスと新年が引き続き神様のお恵みで満たされますように。

(12/27 代表ヴァルゲゼアラハム



2024年はアラハム代表70歳の記念を兼ねて次のような福祉プログラムを

計画しています。

- ① 70人の貧しい人々に、健康と回復を促進するための治療、ケア、資金を含む医療支援の提供を継続（ここでは医療保険に加入している人はほとんどいない）
- ② 希望の家近くの貧しく食べ物がない人々への一時的な食事と栄養支援プログラム

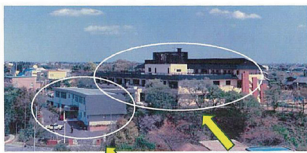
- ③ 70人の貧しい学生への書籍と教育資金援助プログラム
- ④ 衣服を購入する余裕のない学生70人への上下一着あるいはユニフォーム一着の提供
- ⑤ 希望の家の敷地内での無料の医療・歯科診療

(1/15 デイル・G・ヴァルゲゼ)

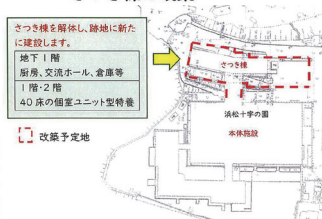
十字の園

十字の園では、浜松十字の園の一番北側のさつき棟と呼ばれている建物が築五十年を迎えようとしています。改築を待つさつき棟の五十年は、居室入り口が木の引戸で、どこか懐かしい風合いを残し、職員の皆様と一緒に利用者の生活を支え、喜びも悲しみも共にして来ました。時を重ねた木の廊下は、職員が気をつけながら歩いても音が鳴ってしまいう事が多くなりまして、毎日の礼拝のみ言葉を、入居されている方々と共に聞き続け、南向きの窓から差し込む光に照ら

【現状】



さつき棟の改築 本体施設



されて輝いています。さつき棟の歩みには、多くの愛の物語が詰まっています。

このさつき棟もいよいよ新しく改築への一歩を歩み始めようとしています。十五年以上前からさつき棟建替えについて様々に話し合いが繰り返して行われ、その度に大きな課題が見え、様々な視点から検討を重ねながら職員の皆様と一緒に少しずつ、少しずつ歩みを進めて参りました。その歩みもいよいよスタートを切ることが出来る歩みへと進み、これまで関わってくださった多くの方の思いが形となって行きます。五十年愛されたさつき棟同様に皆様から親しまれ、愛されるような支援をご利用者やご家族に届けて行けるように職員一同励んで参ります。よろしくお願いたします。

(1/9 理事長 鈴木淳司)

聖隷福祉事業団

2023年5月にコロナが5類に移行し、様々な制限が緩和される一方で、物価高や人手不足が深刻化し、我々を取り巻く社会環境が厳しくなっております。7月に聖隷浜松病院S棟が竣工



聖隷浜松病院新S棟



し、病院周辺の混雑を解消すべく、94台分の駐車場を新たに整備しました。また、眼科並びに眼形成眼窩外科の外来と手術部門を結びつけ、高度な眼科医療を提供するアイセンターもオープンしました。8月には、通所機能と保育所などへの訪問支援や相談支援の機能を統合した聖隷こども発達支援センター和合が竣工しました。地域において中核的な療育支援施設となるだけでなく、強み



聖隷こども発達支援センター和合

である医療事業を生かして子供たちをサポートしてまいります。

2024年度の事業方針は「職員一人ひとりが輝き、最高の質のサービスを提供する」です。今、人材の確保と育成は我々の大きな課題であります。健康経営を推進し、理念の継承と、聖隷への愛着が深まるようエンゲージメントの向上を図り、魅力ある、そしてやりがいのある職場環境作りに取り組みます。隣人愛の理念のもと、ますます高まる社会の期待に応え、保健・医療・福祉の分野で最高の質のサービスを提供できるように、一層の努力を重ねてまいります。

(1/12 常務執行役員 彦坂浩史)

ブラジル希望の家

《持続可能な改善活動》

1963年に設立されたイタケアケセトウバ(サンパウロ州)の希望の家は、30人の男性と37人の女性の合計67人の住民が集まり、知的障害と身体障害を抱える人々の生活の質を向上させるために、社会的共存、自律、自立の基本原則を実践することを目指しています。



フェスタ・ジュニーナ参加者

2023年には、様々な分野からのサポートを受けながら、複数のイベントが実施されました。第22回ボランティア

ア・チャリティ・アクション、第19回フェスタ・ジュニーナ、第45回フェスタ・ド・ヴェルデが開催され、約15,000人が参加しました。これらのイベントは、単なる歓喜の瞬間だけでなく、施設を維持するための資源の供給源でもありました。また、JICAの



ブラジル JICA 江口代表(右)、希望の家本会長(中央)

助成金を通じて、保健室の医療機器の購入が行われました。そして、日系議員のマルシオ・ナカシマ氏によってエネルギー生成のための太陽光発電システムが導入されました。著名な陶芸家、本間之子氏とのパートナーシップは、入居者のセラピーとトレーニング、そして施設の持続可能性を向上させるために始まりました。住民は「希望テック」ルームでデジタル技術を活用し、生活の質と社会的包摂を促進するよう奨励されました。

「2023年、私たちはコミュニティ全体の支援により、『希望の家』が継続的な成長と改善を達成した重要な成果を記録しました」と、下本ジルセ会長は強調しました。

(1/12 施設長 奥野キヨミ・ヴァレリア)

小羊学園

新型コロナウイルスの5類移行を受けて、しばらく自粛してきた行事(つばさ静岡のフェスタつばさ、支援センターわかぎの秋祭りなど)をそれぞれ工夫しながら開催しました。三方原スタエア(児童部・成人部)でも久しぶりに遠州栄光教会三方原会堂をお借りしクリスマスキャンドルサービスをもつことができました。地域の教会等から聖歌隊としてご参加く

ださったボランティアの皆さんによる讚美と聖書朗読でキリストの降誕物語をもに味わい、お茶とケーキのささやかな楽しい分かち合いのときをもちました。



キャンドルサービス

支援センターわかぎでは、静岡県知的障害者福祉協会の主催する作品展「愛護ギャラリー展」に毎年出展し、いくつかの作品が賞をいただきましたが、今年度、工芸部門に出展したN・Tさんのさおり織の作品「和を織るひと」が、初めて最高賞である「静岡県知事賞」に選ばれました。



さおり織の作品

また、新年早々起こった能登半島地震の被災者支援のために、加盟している福祉団体の呼びかけによる職員派遣に協力するとともに、数年前から浜松市内の有志企業を取り組んでいる被災地支援「はままつ na net」にも参画しています。

(1/12 理事長 稲松義人)



牧ノ原やまばと学園

《2023年度の歩み》

五月に、新型コロナが「五類」に移行し、(行動制限などが緩和され人々の往来が盛んになったため)かえって緊張が高まりましたが、その後慣れたせいでしようか、新年が明けた今、ポツポツと感染者が出ていますが、落着いて対応できています。

前年度より取り組んだ「中長期計画」は次年度から具体化していく予定です。創立者たちの願い「単なる事業ではなく小さき人々を中心としたコミュニティを、地域も巻き込んで創っていく」



ホームEPA生 カホシヤ インドネ

を共有し、現状を反省し、次年度へ繋ぐことができたのは良かったと思います。私たちの喜び



クリスマスの花のくりかた

びは、大声で叫んでいたご利用者が穏やかになり、笑顔になったりするのですが、一方では仲間の鼻を噛むなど、想定外のことをする人もいたり、深く関われないまま転出する人もいたりして、全て

の職員が専門性と思いやりをもった支援者として一段と成長していく必要があります。そのレベルアップのため、次年度も皆で協力していく所存です。

地域のためには、低所得者への利用料減免、地域住民の買物の際の公用車貸出し、生活困窮者への食糧支援、清掃活動への参加、出前の啓発活動等、いろいろしてきましたが、行政関係者や、ご家族、職員たちからも、要望を聞く機会がありましたので、できるだけ応えていく予定です。

当年度も、障害者施設から法人内の特別養護老人ホームへ移った人が2名いました。元児童施設職員だったAさんは「元園児のタカシさんやフミコさんをここで再びケアすることになるとは」と感慨深く語っていました。小規模特養も含む二つのホーム(合計約百名)には、現在、元園生や元寮生が計8名います。保護者や、元職員だった人も、特養ホームを利用したので、超高齢社会を見据えて、地域住民やご利用者、職員のために開設した特養ホームは、今その目的を果たしていると言えます。11月には教団の西之園路子牧師、ちいばの会の後宮みち子さん、十字の園の金谷一作さんと共に、インドネシアの西スラウエツシ島を訪ね、ミナハサ福音キリスト教会

(GMIM)の活動や、その傘下にある病院や大学、看護学校、孤児院などの様子を視察しました。職員は全員がキリスト者で、施設長は全て牧師(病院長はドクター)、日々の日課の中に、礼拝や祈りの時があり、みことばにより励まされ導かれている様子がよく分かりました。キリスト教精神に土台を置く社会福祉法人関係者として、そのことは羨ましくもあり、今後のあり方への示唆を与えられたことでもありました。クリスマスチャンの青年たちを日本へ送りたいというGMIM関係者の思いと、お迎えたいというこちらの思いはまだ具体化への道筋がついていませんが、み旨に合った方法で実現するよう願っています。

(1/23 理事長 長澤道子)

神戸聖隷福祉事業団

《4年ぶりのタイ研修再開》



タイの子どもたちとスラム

神戸聖隷福祉事業団では、2017年度からタイ国チェンマイ市において海外研修を実施してきました。タイは仏教国ではありますが、宗教の違いを超

えて、人が人に仕えるという豊かなホスピタリティをもって福祉に当たっておられる現場を訪ね、その考え方や手法を学ぶ「理念研修」と位置付けて実施しています。施設や設備は日本が先んじているとは言え、福祉の理念や精神は大いに学ばされてきました。

2020年度からはコロナ感染蔓延のために中断していましたが、昨年12月に4年ぶりの再開となりました。5日間のチェンマイでの滞在で、自閉症サービスマイヤーや障害者就労支援施設、コミュニティの高齢者学校の見学、独居老人宅へのホームビジットなど豊かな学びとなりました。また、泥で濁った川の河川敷に粗末な家が並びスラムを訪ね、子どもたちとの交流は参加者に大きなインパクトを与える体験となりました。

今回の特徴は参加者7名の中に1名、大学生を招いたことです。連携協定を結んでいる神戸常盤大学からの学生を招き、共に学びましたが、学生ならではの新鮮な視線で研修を受け止めていました。これは今後の連携強化に繋がるものでした。

職員の多面的な養成のために、神戸聖隷福祉事業団では次年度もタイでの研修を続けていく予定です。

(1/26 理事長 水野雄二)



長谷川保聖書研究

マタイによる福音書

七節〜十二節

《求めなさい》

7節「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

「求めなさい」は、くださいと頼む、願う、要求するというような意味の言葉です。「そうすれば」は「そして」という言葉が使っており、そして、与えられるであろう、必ず与えられるということです。「探せ、そうすれば、見つかる」、探し求める、得ようと努力するという意味の言葉です。努力しなさい、願い求めなさい。そして必ず見出し出す。

8節「だれでも、求める者は受け、探すものは見つけ、門をたたく者には開かれる」

「だれでも」、みんな求める者は得る。一生懸命努力して探し求める者、その人は見つける。門をたたく者は開けてもらえる。確かにそうですね。キリストの真理に立ってだれでも。しかしここで気をつけなければならぬのは、ただでたために門をたたいてもだめ、求めてもだめ。キリストにあつて、探す、キリストにあつて門をたたく。つまり信仰と愛をもって門をたたき、探し、求め

なさい。だから私どもは求め、たたき、あるいは探すということが、イエス・キリストにある信仰とその動機はアガペーの愛を行うということ。そういう態度でなければいけない。そういう態度で、主がお命じになった愛を実行する。主の十字架の救いを信じて、そして喜んで我が身を捧げようとする。愛を行うために願う求め、門をたたく。そういうときに、そして与えられる。

9節以下にまいりますと、「あなたがたのだれが、パンを欲しがるか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」

愛を行うということですね。私と自分の子との関係です。またここに出てくる「蛇」はレビ記にある「魚のうちひれやうろこのない、汚らわしいもので食べてはならない」とされるウナギです。すなわち掟を犯すことになるわけです。そういうものを与えるような人がどこにあるのか。確かに私どもは、いつでも悪意を含んでいる者です。そういう者でも、子供達が求めたときにはちゃんと与える。天に在すお父さんがそうしないことがあるか。だから父の

御心を体して求め、たずね、たたきというときには必ず与えられる。信仰と愛とをもってそれを行うときには必ず与えられる。天の父を父と呼ぶ、父と考えて行う。そういう者には必ず与えられる。

そこで12節が出てくるわけです。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と予言者である」

こういうような積極性を持った言葉というものは、世界にないのです。ユダヤ教のラビも、中国の孔子も、ギリシャのストア派の学者も、エジプトの古い教えも、すべて「自分が欲しくないことは、人にもしてはならない」と教えている。みんな消極的なのです。これに対して、キリストの教えは逆に非常に積極的です。人にして欲しいと望むことは、人にもそのようにしなさい。人からして欲しくないことを人にしてはいけないというものは、これはむしろ常識だということです。

こういう態度がなければ、社会生活が成り立たないのですが、そういう態度だけだと、人に危害を与えないけれども、何ら自分たちの同胞に対して積極的な善いこともしない、役に立たない。よくありますね。いい人だけれども、さっぱり何の善いこともしない。これがもし戒めとして、つまりキリストの命令として出

てきますと、こういう消極的なものではなく積極的なかたちで、自分がしてほしいことは人にもせよということになってくる。ここにキリストの愛というものが出てくる。愛があれば当然そうしてゆく。

キリストのアガペーの愛という教えは、自分に何ら報いを与えないような人、あるいは必ずしもいい人ではないという人、罪人に対しても自ら進んで積極的に愛を行うという立場ですね。

分かりきったことではありますが、このように明確に、我々の人生における正しい態度というものを教えた人がいる。人にしてもらいたいと思うことは自ら進んでそれを行え、愛を行えということを強く主張した。ここに山上の垂訓の最後の、死に際まで私どもの態度というのは積極的でなければならぬ。愛を行うときは積極的に。

(聖句の引用は口語訳聖書より。既刊「長谷川保聖書研究 マタイによる福音書」より)

